

平成 25 年 5 月 9 日

浜田市議会議長 濱松 三男 様

産業建設委員長 三浦 保法



委員派遣報告書

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

記

1. 期 間 平成 25 年 4 月 23 日～ 4 月 25 日

2. 場所及び目的

「所管事務調査のため」

【小山市市議会】








(1) 道の駅思川事業について

【気仙沼市議会】

(1) 震災後の新しい気仙沼市のまちづくりについて

3. 精算額 一人当たり旅費 86,860円

4. 派遣委員名

三浦 保法  原田 義則  西田 清久 
山崎 晃  新田 勝己  田村 友行 
牛尾 昭 

5. 調査の概要

別紙のとおり

なお、高見庄平委員は体調不良のため欠席

平成25年5月9日

浜田市議会議長 濱松 三男様

産業建設委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行ないましたので、その結果を報告いたします。
記

- 1、期 間 平成25年4月23日(火)～4月25日(木)
- 2、視察先 栃木県小山市 宮城県気仙沼市
- 3、参加者 (産業建設委員会委員)
三浦保法委員長 ・原田義則副委員長、 ・牛尾 昭委員
田村友行委員 ・山崎 晃委員 ・西田清久委員
新田勝己委員

4、調査項目

- (1) 栃木県小山市
○道の駅思川(おもいがわ)事業について
- (2) 宮城県気仙沼市
○震災後の新しい気仙沼市のまちづくりについて

5、調査に至った経緯

- (1) 栃木県小山市 道の駅思川事業について
浜田市には、道の駅が浜田・三隅にある。浜田についてはリニューーアルし収益向上を目指しているが不況等の理由で目標達成に到達出来ていない。三隅に至っては現状の経営が厳しい状況であるが、浜田・三隅道路が開通する平成28年度以降の経営見通しも立たない。そこで全国有数の集客を誇る道の駅思川の視察を計画した。
- (2) 宮城県気仙沼市 震災後の新しい気仙沼のまちづくりについて
東日本大震災発生から約2年が経過し、気仙沼市は全国から多くの支援を受けながら復興をしてきている。浜田市においても特定第三種漁港の縁から職員派遣を中心とした支援を行なってきている。
その気仙沼市の震災後の新しいまちづくり、新しい水産加工団地の建設方針や都市計画、道路整備を中心としたインフラ整備など、産業・建設面からの震災後のまちづくりについて視察を行なう。

6、各視察先の調査内容

栃木県小山市

1) 市の概要

人口は約16万人で、県内では宇都宮市に次いで栃木県第2位の人口をもつ都市となった。また、東京圏から60Km, 東北新幹線とJR3線、3本の国道が結節する交通の要衝である。城南地区、美しが丘地区などで開発中のニュータウン地域もあり人口増加が見込まれる。

豊かな自然に恵まれ、農・工・商の調和のとれた都市といえる。

2) 「道の駅思川」事業概要

道の駅思川は、小山の「水と緑と大地」の豊かな自然と人々の高い技術によって生み出される農畜産物、商工芸品等の小山ブランドの創生と発信、地産地消・食育の推進、そして都市と農村の交流を促進する拠点施設として、一般国道50号に平成18年4月29日にオープンしたものである。

平成18年10月来場者100万人突破、平成20年度総売り上げ10億円突破、

来場者168万人などと合わせて、総売り上げ10億円の過半数に及ぶ農産物総売り上げ約5億円である事である。

【概要】全体面積3、3ha

- 1、駐車場153台 大型車29台 身障者用3台、合計185台
- 2、小山物語館（直売・物産・加工・情報発信施設）
 - (1)直売コーナー（運営：JAおやま道の駅農産物直売所利用部会 部会員146名）
新鮮な野菜や果実、花、米等地元農家が生産したものを販売
 - (2)物産コーナー小山ブランド品の販売
 - (3)加工品コーナー 地元の食材を使った加工品の製造・販売
アイス、パン・馒头、惣菜、漬物、豆腐、納豆、ジャム
 - (4)軽食・スイーツコーナー
肉汁うどん、たいやき・たこやき、スイーツ
- 3、食彩館 客席76席で小山産の食材を使い、運営は小山グランドホテルに委託
- 4、小山評定館（コミュニティ施設）
- 5、ワイワイ広場 グランドゴルフ2面 ゲートボール4面 こども向け遊具等
- 6、事業費

総事業費	1、575、531千円		
内訳	・国	335、321千円	
	・県	37、620千円	
	・市	1、202、590千円	
			起債 805、900千円
			一般財源 396、690千円

7、利用状況 (1)小山物語館のレジ通過者数（人）

18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
703,587	674,644	705,988	711,779	698,459	706,529	728,176

(2)小山評定館の利用状況24年度 件数1021 利用人数104、092

8、売上げ状況

	H19	H20	H21	H22	H23
総売上	936,236	1,013,832	1,041,969	1,060,683	1,002,562
内直売	407,978	461,317	475,452	494,877	464,310
生産者数	139人	134人	133人	144人	142人

【質問事項と答弁】

事前に13項目にわたる質問をし、当日文書で回答と説明があった。委員から農産物の直売を中心とした質問が集中した。

- 1、道の駅開設は、どのような発想と準備があったのか？

A、市で平成8年に道の駅調査研究会を発足し、調査検討し、平成18年にオープンした。
- 2、開設準備委員会の立上げとメンバー構成について

A、農林水産省の補助事業であり、地元農家、農業関係団体、市内各層の方々をメンバーとした。
- 3、思川店長招請は、誰の起案か？

A、初代・2代の支配人（店長）は、東武百貨店から出向で招いた。軌道に乗った後に、市職員OBを支配人（現）に迎えた。
- 4、店長の掲げた売上げ・人材育成目標は、誰の起案か

A、社長が市長であることから、社長の意向を汲んで支配人が行なっている。
- 5、地元農家との契約でJAとの関係は

A、JAがテナントして入っている。
- 6、現状に問題点はあるのか

A、近隣に同様の道の駅が出来ているので競争が激化していることと、生産者農家の高齢化がある。
- 7、将来ビジョンはどうか

A、都市と農村の交流のため設置したものであり、市民農園もあり、全体で5、7

haの面積にしたい。今後も、本来の都市と農村の交流の場として充実させていきたい。また、新たな道の駅の建設も考慮していきたい。

主な質問の報告としたが、現市長が農林水産省出身で農業を通じた地域の活性化、町作りを学ぶ事が出来た。特に総売り上げの約半分を産直が占める事、またその事による集客にもヒントを貰った気がした。当日栃木放送に三浦委員長がインタビューに答える形で浜田との交流を訴えていた。

宮城県気仙沼市

1) 市の概要

人口は約73千人で、三陸南部の商業拠点になっている。変化に富んだリアス式海岸は観光にも発展している。特定第3種漁港を初めとした市内の各漁港は、沿岸漁業・養殖漁業、世界3大漁場「三陸沖」での沖合漁業、遠洋漁業の基地として機能し、関連する造船から水産加工までの水産業が立地する。カツオ、サンマを追って各地の漁船が集まり、フカヒレを買い求める中国人のバイヤーなどが訪れる。「気仙沼ホルモン」は、人々の広域な交流と産業背景から生み出されたとして知られる。

2) 東日本大震災

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、地震そのものの被害に加え、津波、火災、地盤沈下によって市内沿岸部は壊滅的な被害を受けた。死者1,032人、行方不明者324人、避難者最大時約2万人、住宅被災棟数15,590棟。道路やライフラインに大きな打撃、沿岸地域では地盤沈下による浸水被害を受けた。

3) 浜田市の支援状況

同じ特定第3種漁港により、2012年12月末現在で避難所運営や専門職による行政運営支援として延べ約120名を派遣し人的支援を行なっている。現在、退職職員を再任用し気仙沼市役所に派遣し、新しい市場の設計、管理を行なっている。私たち視察団に対して浜田市の物心両面の支援に対しどこにいても感謝された。

1、復旧・復興事業の取組状況と課題

1) 復旧・復興事業の進捗状況について

(1)市土基盤の整備(市街地は、コミュニティは破壊された)

①集団移転の状況 集落コミュニティを活かし、集落部では集落ごとの移転を促進
市街地では、市誘導型による集団移転を実施。

移転先の地権者の同意や埋蔵文化財調査等が課題

※①～⑫項目にわたっての説明資料(以下も同じ)

(2)防災体制の整備 (3)産業再生と雇用創出 (4)自然環境の復元・保全と環境未来都市 (5)保険・医療・福祉・介護の充実 (6)学びと子供を育む環境の整備

(7)地域コミュニティの充実と市民等との協働の推進 (8)復興関連予算について41ページにわたる詳細な資料の説明を受けた。

海岸で津波被害を受けた所は、瓦礫処理は、概ね完了し、建屋の基礎部分のみがあるだけでした。これから、計画に沿って上下水道、処理施設、道路等の建設に着手されると思う。

2) 水産加工施設等集積地整備事業

(1)事業概要

①目的 東日本大震災で被災した気仙沼漁港背後にある南気仙沼地区と鹿折地区において、これまで点在していた水産加工施設(加工場・冷蔵庫等)の集約化をすすめ、水産業の早期の復興と効率化に向けた総合的な整備を図る。

②事業費 120億5千万円(漁港施設機能強化事業「水産庁」外)

③面積 29ha(南気仙沼地区18ha,鹿折11ha)

④事業内容 用地買収、盛土嵩上げ、道路等インフラ整備

⑤事業期間 平成24年度から平成25年度（2カ年）

まとめ

今回、小山市と気仙沼市を視察に選んだ。小山市の道の駅は、準備と調査に基づいた事業展開と専門家による経営手法が集客と健全経営に繋がったと思えた。気仙沼市は、震災の甚大な災害の爪痕の中から、瓦礫処理から町作りに向けた復興も2年経過した中で力強く進み始めたことも実感出来た。鈴木前市長を訪問し浜田市が贈った黒松をバックに記念写真をとり、当時の実態を聞くことが出来た。また、奥様が津波に流され九死に一生を得られた経験を話された時委員は皆胸を熱くして聞いた。1日も早い復興を念じながら報告書とします。

報告者 新田勝己